

産婦人科医療において漢方が果たす役割

医療法人三生会 みちがみ病院 副院長 多久島 康司 先生



1989年 山口大学 医学部 卒業、同学 産婦人科学教室 入局
1991年 社会保険小倉記念病院、厚生連周東総合病院、国立山口病院
2000年 町立大和総合病院 産婦人科 部長
2003年 医療法人かりゆし会ハートライフ病院 産婦人科 部長
2007年 現職

「女性にやさしく、いつでも気軽に相談ができて、玄関に入るだけで元気と希望がわいてくる病院を目指す」という理念に基づいて開設されたみちがみ病院は、産科・婦人科・小児科・女性内科の病院として山口県光市を中心に、長年にわたり広く地域医療に貢献している。「患者さんが笑顔でお帰りいただける病院でありたい」とおっしゃる副院長の多久島康司先生は、漢方治療も積極的に組み入れることで治療実績を上げておられる。そこで今回は、多久島先生に産婦人科医療における漢方治療の実際と、産婦人科医療に果たす役割について伺いました。

女性と子どもと家族のための病院

当院の歴史は、道上文和先生が1992年に開設した「みちがみ医院」に遡ります。2006年には現在の地に移転し、新たに小児科を開設しました。そして2009年には、道上先生が目指しておられた「女性をトータルに診る」ことを目的に病院化しました。

残念ながら、道上先生は2011年に急逝されましたが、道上先生の理念を継承しつつ、現院長の上田一博先生（広島大学名誉教授）の下、患者さんやご家族にやさしい、そして満足度の高い病院を目指しています。

当院では、患者さんに安心して気持ち良く診察を受けていただくことはもちろん、ご家族にも気軽に来ていただき、快適に過ごしていただけるよう、キッズルーム（無料の託児室）、産後の疲れを癒していただくエステ、院内教室に利用できる多目的ホールやご家族にも寛いでいただけるカフェを併設するなど、施設サービスの充実にも努めています。

産婦人科において漢方の果たす役割は大きい

当院の産婦人科では、すべての患者さんのあらゆるニーズにお応えできる医療をご提供することはもちろんのこと、

緊急時にも対応できる体制と最新鋭の設備を整えています。さらに、漢方治療も積極的に行っています。

たとえば、「瘀血」や「冷え」は西洋医学的治療では必ずしも適切な治療ができるとは言えませんが、患者さんの状態に応じて適切に漢方薬を用いれば、確実な治療効果が期待できます。また、当院では多くの分娩を扱っていますが、漢方薬は妊娠中や授乳期にも比較的安心して服用していただけるというメリットがあります。

このように、産婦人科の医療において漢方は不可欠であり、その果たす役割は非常に大きいと実感しています。

産科における漢方治療の実際

産科領域において汎用している主な漢方処方には、柴苓湯、芍婦調血飲や柴胡加竜骨牡蛎湯など多数あります（表）。

柴苓湯は、妊娠時の浮腫に用いています。近年、軽度の浮腫は治療対象としない傾向にありますが、妊婦さんには非常に不快な症状ですし、QOL低下の原因になることから治療の必要性を感じています。吐き気や食欲不振のような機能的胃腸症（FD）症状を伴う場合は、特に白朮配合のクラシエ柴苓湯が有効です。

芍婦調血飲は、正常な産褥子宮の復古と乳汁分泌促進を

目的に、産後の基本処方として使用しています。通常は1週間分を処方しますが、継続服用を希望される方もいらっしゃいます。また、軽度の産後うつ症状にも有効です。

柴胡加竜骨牡蠣湯はもともと神経質な方で、さらに妊娠中に交感神経の緊張によって血圧が上昇する方がいらっしゃいますが、このような方に有効です。特に、大黃配合のクラシエ柴胡加竜骨牡蠣湯の有効性を実感しています。

冷えと瘀血の治療

女性患者さんを診療する際には、瘀血と冷えに注目することが重要です。患者さんに瘀血がないか、冷えがないか、を確認した上で処方を使い分けますが、それが患者さんの体質改善にもつながりますし、患者さんの満足度も高まります。

瘀血については、女性の多くは程度の差はあっても瘀血症状を有していますので、患者さんの状態に応じて駆瘀血剤を適切に使い分けことが重要です。具体的には、桃核承気湯、桂枝茯苓丸、加味逍遙散などを使い分けています。

冷えに対しては、瘀血が強い方であれば桂枝茯苓丸や桃核承気湯、やせ型の方には当帰芍薬散や人参湯、さらに末梢循環が悪く冷えが強い方には当帰四逆加呉茱萸生姜湯が有効です。これらの処方をお湯に溶かして服用していただきますが、生姜を加えていただくことも効果的です。夏場の冷えにも注目する必要がありますが、たとえば冷房が原因の肩こりからくる頭痛には葛根湯が有効です。

表 産科領域の汎用処方

処方	主な対象疾患	備考
柴苓湯	妊娠浮腫	FD症状を伴う場合は、白朮柴苓湯が有効
		浮腫のみであれば、五苓散も有効
	不育症 多嚢胞卵巣症候群	
芎歸調血飲	分娩後のルーチン処方	子宮復古
		乳汁分泌促進
		産後のうつ症状
柴胡加竜骨牡蠣湯	妊娠時の高血圧	神経質な方の血圧上昇
乙字湯	産前産後の痔	
大黃甘草湯	妊娠中の便秘	
葛根湯	乳汁うっ滞	乳腺炎の場合は、抗生剤を使用
麻黄湯	風邪症候群の諸症状	
小青竜湯		
麦門冬湯		
十味敗毒湯	ステロイド薬を服用できないアトピー性皮膚炎	



高齢で冷えや頻尿症状、女性生殖器の異常を訴える患者さんには八味地黄丸が有効です。特に丸剤は効果の面でも優れている印象があり、患者さんにも好評です。

漢方の奥深さを痛感

私は、医師になって間もないころから、漢方薬を使用していました。ただ当時は、初心者向けの教科書に書かれているような、マニュアル的な使い方でした。漢方に強く興味を持つようになったきっかけは、寺澤捷年先生(千葉中央メディカルセンター)との出会いです。

20年ほど前、カネボウ薬品が主催した1泊2日の勉強会に出席し、寺澤先生から漢方の奥深さを教えていただきました。先生の和漢診療学の考え方に大変感銘を受けたことを今も鮮明に覚えていますし、一緒に聴講された諸先生との漢方談義も大きな刺激になりました。

この勉強会が、西洋医学と同等レベルで漢方治療ができるようになりたいと思う契機となりました。

漢方診療の幅をより広げたい

私は、産婦人科領域のすべてにおいてエキスパートでありたいと願っており、漢方についてもその例外ではありません。

女性は比較的漢方治療を受け入れてくださいます。しかも、妊娠中を含め、若年の患者さんから高齢の患者さんまで幅広く使うことができます。全ての患者さんにご満足いただける治療ができるようになるには、さらに研鑽を積むことが必要ですし、日々の診療で患者さんの訴えに耳を傾け、先人の口訣にあてはめながら、また患者さんに教えていただきながら、漢方診療の幅をより広げたいと思っています。それが、患者さんの高い満足度や治療に対する安心感にもつながると思いますし、治療効果の向上にも役立つと確信しています。